

サーサナ

第46号 仏暦2562 (西暦2019) 年11月12日

現世利益 (げんぜりやく)

「〇〇を信仰すると病気が治る (商売が繁盛する / 家内が円満になる / 受験に合格する)」といった宣伝をする宗教があります。私のようにつむじ曲がり*に*いわせると、「そんなことで病気が治るくらいなら病院なんかいら
ないじゃないか」と思ってしまいます。しかし世間では、こういうのが宗教だと思われているふしがあります。

たしかに大昔、病気の原因がわからなかったり、治療の方法が確立していなかった時代には、わらにもすがる思いというのでしょうか、祈禱とかまじないとか護符のようなものに人々は頼らざるをえなかったのでしょうか。こういうあり方は原始宗教の一つの側面ですが、仏教やキリスト教のような世界宗教・普遍宗教にあっては、迷信と断ぜざるをえません。

それならば、宗教は私たちにどんな利益 (メリット) をもたらすのでしょうか。浄土真宗では、「信心によって往生する」ことが利益であるといわれます。往生することがなぜ利益であるのか？これはまことに重大な問題ですが、これについては次回に考えてみることにします。

伝統的には、「現当二益 (げんとうにやく)」とあって、現在の利益と将来の利益のふたつがあり、往生は将来の利益です。では現在の利益とは何を指すのでしょうか。親鸞聖人は十五首の「現世利益和讃」を作られましたが、その中に「南無阿弥陀仏をとらふれば この世の利益きわもなし 流転輪廻のつみきえて 定業中天のぞこりぬ」という一首があります。念仏する行者は輪廻 (迷いや執着による生まれ変わり) を克服し、また天寿をまっとうせず天折 (若死) することもない、というのです。

これだけ聞くと、浄土真宗では信心すると長生きできるのか、と思われるかもしれませんが、そもそも何歳が天寿といえるのでしょうか。昔と今とでは平均寿命が違います。平均寿命まで生きれば天寿といえるのでしょうか。それは一律に決められることではありません。30歳で命終わるとしても、その30年がそ

の人にとって十分に生ききったという達成感があれば天寿ですし、たとえ100歳まで生きたとしても、不満たらたらの生涯であるならば不十分であると感じられるでしょう。「人生は長さではなく幅と深さである」、と金子大栄先生がおっしゃっています。念仏して得られる利益とは、只今・此処において「不足無し」「なすべきことをなし終えた」と感じられることだ、と上の和讃はうたっているように思われます。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます

十二月 成道会（じょうどうえ）

約2500年前、北インドでお釈迦様がさとりを開かれ仏陀となりました。12月8日、35歳のときであったと伝えられています。お釈迦様のさとりから仏教は始まりました。私たち仏教徒にとって最も神聖な記念日です。

今回は、初歩の冥想（アーナーパーナ・サティ）を体験していただくと考えています。数息観ともいって、呼吸をととのえることにより意識の乱れを正して集中する方法です。日本で一般的な坐禅とはやや異なります。椅子に座ってもできます。浄土真宗にはない行法ですが、いちど経験されてみてもよいのではないのでしょうか。

- ❖ 日 時 12月8日（日）午前10時～11時半【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（和文仏教聖典読誦・正信偈同朋奉讃）・冥想体験
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）
- ❖ 記念品 和ろうそく

十二月 門徒総会・忘年会

上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。終了後、お斎（忘年会）があります。出席される方は、12月4日までにご連絡下さい。恒例のビンゴゲームがあります（ゲームの賞品になるもの[未使用品]をご提供いただけるとありがたいです）。

- ❖ 総 会 11時半～12時
- ❖ お 斎 12時～（今年は「和菜割烹えん」のお弁当です）

一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖ 日 時 1月1日（水）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖ 持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖ 記念品 鏡餅（お子さんには菓子袋）
- ❖ ぜんざいの接待があります。

年忌法要

来年（2020年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2019年（平成31年/令和元年）		
3 回忌	2018年（平成30年）	< 2 7 回忌 >	1994年（平成6年）
7 回忌	2014年（平成26年）	3 3 回忌	1988年（昭和63年）
1 3 回忌	2008年（平成20年）	< 3 7 回忌 >	1984年（昭和59年）
1 7 回忌	2004年（平成16年）	5 0 回忌	1971年（昭和46年）
< 2 3 回忌 >	1998年（平成10年）	< 7 0 回忌 >	1951年（昭和26年）
2 5 回忌	1996年（平成8年）	1 0 0 回忌	1921年（大正10年）

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によってはく >内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖ 御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖ 僧侶が袈裟衣を着替えるためのスペースを用意して下さい。
- ❖ 勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖ 開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖ 教心寺本堂で開催の場合、使用料として1万円をお願いしています。

ユニセフ募金

10月8日、皆様からお預かりした浄財8,401円を公益財団法人・日本ユニセフ協会へ振り込みました。累計では269,034円になりました。深謝。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃懇志金のお願い

真宗大谷派では来る2023年春にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に向けた取り組みが始まりました。「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマのもと、自らの聞法生活を問い直し、あらためて念仏申す歩みを確かめていく大切な機縁となることを願っています。

つきましては、経済状況が厳しい中ではなはだ恐縮ではございますが、慶讃法要の円成と慶讃事業の完遂に向けて御懇志（寄付）のお願いを申し上げます。

なお、当寺に対して名古屋教区から割り当てられた目標額は927,000円となっておりますが、皆様におかれましては額は任意です。

ご進納に際しましては、郵便振替00880-4-68473「教心寺」をご利用下さい。会費と混同しないよう、「懇志金」とお書き添え下さい（何も書かれていない場合は会費として扱います）。

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただけるとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。上記「懇志金」と同時に払い込まれる場合は内訳をご記入下さい。

永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相續されますことをお願いいたします。

8月7日 岩田様[緑区神沢] 10万円

真宗大谷派 教心寺 (名古屋教区第30組)

編集発行人 釋眞弍 (山口眞一)

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
